

# ヘンリー・フィールディングの小説

——『トム・ジョーンズ』の本質（IV－4）——

児 玉 啓 介

## 1. は じ め に

今回の論文は『トム・ジョーンズ』の本質の最終部分で、第15巻から第18巻までを例証するが、第15巻は12章から、第16巻は10章から、第17巻は9章から、第18巻は13章から成り立っている。

主な登場人物はトム・ジョーンズ、ソフィア・ウェスタン、オールワージー氏、ウェスタン氏、ソフィアの叔母のウェスタン夫人、ベラストン夫人、ミラー夫人、フィッツパトリック氏、フィッツパトリック夫人、ウェスタン氏の牧師サプル氏、その他10数人である。

今回は『トム・ジョーンズ』の最終部分であるだけに、終りに近づくにつれて、ジョーンズとソフィアが一緒にいる場面が多くなる。その間にジョーンズの父親と母親がわかり、ジョーンズは捨て児ではあっても、結局はオールワージー氏の甥であり、ブリフィルとは異父兄弟であるということがわかる。

ウェスタン氏はソフィアをブリフィルと結婚させることに熱心であるが、ソフィアはブリフィルを嫌っていて結婚する意志は全然ないし、ブリフィルはある事件以後オールワージー氏を裏切って彼の信頼を失ってしまったので、ソフィアとブリフィルの結婚は全く考えられなくなる。そうこうするうちにジョーンズの出生の秘密が明らかになり、オールワージー氏がそれまでジョーンズを冷遇していたことをわびて、ジョーンズとソフィアの結婚話が具体化していく。

これとは反対に、オールワージー氏はブリフィルに冷淡になるが、ジョーンズの取りなしで二人の関係は元通りになり、静かに退場する。ジョーンズとソフィアは最終章で周囲の人すべてに祝福されてめでたく結婚をするが、すでに二人の子供、男の子と女の子がおり、この二人の世話でウェスタン老人は余念がなく、眼に入れても痛くないほどの可愛いがりようである。オールワージー氏はジョーンズに対して寛大になり、事あるごとに愛情を表現する。ジョーンズの性質の中には悪徳への傾向があったが、この善良な伯父との絶え間ない会話によって、更に美しく美德のあるソフィアとの結婚によって矯正される。ジョーンズもまた自分の過去の愚行を反省して、彼の生き生きした体の中に非常にまれな慎重さと用心深さを修得することになる。

## 2. 登場人物とその人となり

(1) トム・ジョーンズ

(a) ベラストン夫人とフェラマー卿が話している場面で夫人は言う。

「私の回りにはしあわせな男性が沢山いるけど、彼は世界で一番身分の低い男で乞食で私生児で捨て児で、あなたの召使いより身分の卑しい奴です」と（15－2）。

(b)オナー夫人とジョーンズがいる場面で夫人は言う。

「あなたとソフィアが結婚できれば、こんなにめでたいことはない。というのはあなたは寛大で気立てのよい紳士だから。あなたが彼女を愛し、彼女があなたを心から愛しているのは確かなこと。それを否定するのは空しい」と（15－7）。

(c)ベラストン夫人がウェスタン夫人に向かって言う。

「ジョーンズは非常に愉快的な男で、私たちにとって大きな推薦書であると男たちが言う美德をひとつ持っている」と（16－8）。

(d)ジョーンズとフィッツパトリック夫人の別れの場面で作者は述べる。

ジョーンズは感謝の気持ちを沢山表してから、尊敬の念をもって退いたが、フィッツパトリック夫人は別れの時彼にいちべつのプレゼントをすることに耐えられなかった。というのはもし彼が何も理解しなかったら、彼は眼言葉による理解力をもっていなかったにちがいないから（16－9）。

(e)オールワージー氏とミラー夫人とブリフィルがいる場面でブリフィルが

「あなたの養子ですね、あのジョーンズはあなたが胸の中で育てて来たあのあわれな奴は、地上で最大の悪党ということになりますよ」と言ったのに対して、ミラー夫人が叫ぶ。「聖なるものすべてにかけて、それはまちがいです。ジョーンズは全然悪党ではありません。彼は息をしている最も価値ある人間です。もし誰かが彼を悪党と呼んだら、にえたぎったお湯を彼の顔にかけますよ」と（17－2）。

(f)上記と同じ場面でミラー夫人は言う。

「私は彼に一番大きな一番優しい義理があります。彼は私と家族を助けてくれた人です。彼はあなたにひどい扱いを受けて来たり、そのことを私は知っています。あなたは全くの善であり名誉であるということを私は知っていますが、あなたがこの可哀そうでどうしようもない子供についてあんなに親切で優しいことをいろいろ言われたのに、彼を軽蔑してあいつと呼んでほしくなかった。実際に私の一番善良な友人である彼があなたからもっと親切な名前と呼んでほしい。もしあなたが彼の善良で感謝にみちた言葉を聞いたならば。彼はあなたの名前を呼ぶ時は賞賛の言葉でよびます。丁度この部屋で彼が膝をついてあなたの頭上に天の祝福があるように祈っているのを見たことがあります。私はあの子があなたを愛する以上にあの子を愛することはできません」と（17－2）。

(g)上記と同じ場面でミラー夫人は言う。

「あの青年には欠点がないと言うつもりはありませんが、それは気性の激しさ、若者らしさの欠点であり、彼だったら改めるべき欠点だし、万一できなくても、その欠点は人間が祝福を与えられるあの一番人情味のある、心優しい、正直な心とはくらべものになりません」と（17－2）。

(h)上記と同じ場面でミラー夫人は言う。

「青年紳士を挑発するのを仕事にしている悪漢がこの街にも沢山いることを天は知っていま

す。最大の挑発以外は何も彼を誘惑しなかったはすです。というのは私の家で出会った紳士の中であんなに紳士らしくあんなに気立ての優しい人を見たことがありませんし、彼は家の中の人も外の人にもみんなに愛されていましたから」と(17-2)。

(i)ミラー夫人とソフィアがいる場面で夫人は言う。

「彼は今まで生まれた人のうちで一番気立てのよい人です。…こんなに親切で、こんなに善良で、こんなに寛大な青年に対して十分なことが私にできるかどうかあなたが判断して下さい。確かに彼はすべての人間のうちで一番善良で一番価値のある人間です」と(17-6)。

(j)パートリッジとジョーンズが話している場面で作者がジョーンズに言わせる。

「なぜ私は運命の女神を責めるのか。私自身がすべての悲惨の原因である。私に振りかかったすべての恐ろしい悪は私自身の愚かさと悪徳の結果である。パートリッジよ、あなたが話したことは私から五感を奪ってしまうところだった」と(18-2)。

(k)オールワージー氏とミラー夫人とナイチンゲールが話している場面でナイチンゲールは言う。

「彼は世界で一番気立てのよい男で、喧嘩ずきなところは全然ない。…可哀そうなジョーンズほど善良な人に対してもっている義理に気づいている人は誰もいない」と(18-3)。

(l)スクエア氏が友人あての手紙の中で述べる。

「この若者は心の最も気高い寛大さ、友情のための最も完璧な能力、最高の正直、人間を高貴にできるあらゆる美德をもっています。勿論、彼には欠点がいくつかありますが、その中であなたに対する義務とか感謝の欠如は数のうちにはいりません。それどころか、あなたが彼を家から追い出した時、彼は自分よりもあなたに対して心から血の出る思いをしていたのです」と(18-4)。

(m)ウォーターズ夫人とオールワージー氏が話している場面で夫人は言う。

「実に彼は男の中で一番価値のある男です。彼の年令の若者で彼ほど悪徳のない者はいないし、20番目の美德をもっている者はいない。いや、彼がどんな悪徳をもっているとしても、彼はそれを捨てる決心をしていると私は確信しています」と(18-8)。

(n)オールワージー氏がソフィアに言う。

「彼はいろいろ欠点のある男だったけど、心の底には善良なものがある」と(18-9)。

(o)上記と同じ場面でソフィアが言う。

「この若い紳士は数えきれないほどよい性質を持っていられるので、そのためにおじさまに悪く振るまうようなことをできないのです」と(18-9)。

(p)上記と同じ場面でオールワージー氏が言う。

「あなたのような長所のある夫人が大目に見て下さっても、彼は男の中で一番見すてられた男です」と(18-9)。

(q)ミラー夫人とジョーンズが話している場面で夫人が言う。

「ジョーンズさん、あなたはあまりに善良すぎる。この世で生きるには限りなく善良すぎる」と(18-11)。

(r)上記と同じ場面でオールワージー氏が言う。

「私の善良な子供よ、私も同じようにおまえの心の善良さに、おまえの理解力の速さに驚いている」と（18－11）。

(2) ソフィア

(a) フェラマー卿とベラストン夫人が話している場面で彼が言う。

「彼女は宮廷育ちではないでしょうか。彼女の美しさのほかに、あんなに上品で、あんなに物わかりがよく、あんなに丁寧な人を私は見たことがありません」と（15－2）。

(b) 上記と同じ場面で彼が言う。

「彼女はイギリスで一番よい結婚をする人だと思います」と（15－2）。

(c) 上記と同じ場面で彼が言う。

「あなたの従妹は投げ捨てるにはあまりに大きな価値があり、そんな破滅は防がなければなりません」と（15－2）。

(d) 上記と同じ場面で夫人が言う。

「家のものは彼女にできるだけのことをしたのですが、彼女は夢中になっていて、破滅以外に彼女を満足させるものはないのです。もっとはっきり言えば、彼女が彼と逃げたというのを聞きたいと毎日期待しているんです」と（15－2）。

(e) 上記と同じ場面で彼が言う。

「あなたのおっしゃるのを聞いていると、あなたの従妹を尊敬する気持ちが薄らぐどころか、私の心がゆれて、同情の気持ちが高くなります。あんなに値ぶみできないぐらいの宝石（ソフィア）を保存する手段を何か見つけなければなりません」と（15－2）。

(f) 上記と同じ場面で彼が言う。

「私の考えでは、どんな女性も彼女の魅力の半分ももっていなかった」と（15－4）。

(g) オナー夫人とジョーンズが話している場面で夫人が言う。

「可哀そうにソフィアもがっかりさせられるのではないかと心配です。というのは彼女はひよこのように心のやさしい子だから、彼女が私の勇気を少しももっていないのが残念です」と（15－7）。

(h) フィッツパトリック夫人とジョーンズが話している場面で夫人は言う。

「私の従妹のソフィアについて、そんな説明を全然疑わなかったり、老女が悲喜劇的感情で家族にもたらす沢山のいたずらに対して老女を処罰することに何らかの危害を考え出すほどのそんなおばかさんではないと思います」と（16－9）。

(i) オールワージー氏とウェスタン氏が話している場面でオールワージー氏は言う。

「彼女を知っているすべての人の一致した意見だけでなく、私自身の観察によると、彼女は善良な夫への値ぶみできないぐらいの宝物になるだろう。彼女の個人的能力は確かに賞賛に価するものであるから、私は何にも言わない。彼女の善良な性質や慈悲深い気質や謙虚さはあまりに有名で讃辞を必要としないが、一番善良な女性で天子の第一人者の中に高度に存在する一つの特色を彼女はもっている。それはきらきら光るようなものではないので、普通では人の眼にとまるようなものではないので、それはあまりに小さいことなので一言でいいたい。この際否定の言葉を使うと、彼女の口から生意気な言葉や当意即妙の答えのようなものは聞いたこと

がない。知ったかぶりのところはないし、ましてや沢山学問をし経験の結果である知恵のあるふりをしない。若い女の子がそのように気取くことは猿の気取りと同じように馬鹿げている。わがまま勝手な感情はないし、気むずかしい意見は言わないし、相手をあれこれあげつらうこともない。彼女が男の中にいるのを見た時はいつも、教える者の出しゃばりでなく、学ぶ者の謙虚さをもって、注意を集中していた。スワッカム氏とスクエア氏の論争点について彼女の意見を聞きたいと思って、一度だけ彼女を試したことがある。それに対して彼女は大変優しく答えた。『お赦し下さい。善良なオールワージー様、あの二人の紳士の意見が合わない点を決定する能力が私にあるとはまさかお思いではないでしょう』と。スワッカムとスクエアは二人とも同じように自分自身に好ましい決定を確信して私の申し出に賛成した。彼女は上機嫌に答えた。『絶対にお赦し下さい。どちらか一方に私の判断を下すほどお二人に敢然と立ち向う勇氣はありません』と。実際に彼女は男を理解するのに最高の敬意をいつも表していた。これは善良な妻になるのに絶対に欠くことのできない特質である。一つつけ加えておくと、彼女は明らかに気取りは全然ないので、この敬意は確かに本当にちがいない」と（17-3）。

(j)上記と同じ場面でオールワージー氏は言う。

「私はこの若い女性の長所を長い時間しゃべったが、一つには私は本当に彼女の性格にほれているからだ」と（17-3）。

(k)ウェスタン夫人とソフィアが話している場面で夫人は言う。

「私はあなたのおもねる気質に耐えられません。あなたの体の中にはウェスタン家の血は全然ありません。でもあなたの考えがどんなに卑しく下品であっても、私にまで汚名を持って来てはいけません」と（17-4）。

(l)ミラー夫人がソフィアにジョーンズの手紙を渡した場面で作者は述べる。

彼女の心が最も優しい悲しみ以外に何も支配しない時、あらゆる考えが悩ましい考えに満たされている時、楽しそうな外見を顔に無理に表すことがどんなに難しいかを彼女は理解したに違いないと（17-6）。

(m)ウェスタン氏とソフィアがいる場面で作者は述べる。

ウェスタン氏の本来の優しさがソフィアの忠実な、感謝する、優しい、愛情のある心に影響を与えた（18-2）。

(n)ミラー夫人とジョーンズが話している場面で夫人は言う。

「本当に彼女は美しい女で、私が今まで見た一番甘美で一番思慮深い女です。彼女が優しい表情をしたので、もう少しでキスをするところだった。それはセネカか僧正にふさわしい感情だった」と（18-10）。

(3)オールワージー氏

(a)作者は述べる。

オールワージー氏は（ウェスタン氏の）非難を微笑みだけで怒ったが、彼が努力したとしても、その微笑みの中に悪意か軽蔑を入れることはできなかった。愚かさに対する彼の微笑みは実に天使が人間の不合理に対して与えるようなものに似ていたと（17-3）。

(b)作者は述べる。

オールワージーはこの善良な女性（ミラー夫人）よりも冷静な性質をもっていた。…しかし彼女に似た疑いをもっていないのではなかったと（18-5）。

(c)オールワージー氏とソフィアが話している場面でソフィアは言う。

「あなたのおっしゃる一言一言がああ善良で、偉大で、ああ慈悲深い性格を表していますし、それを世間の人はみんな認めていますよ。…オールワージーさんの唇からは真実以外に何も出て来ない」と（18-9）。

(d)オールワージー氏とジョーンズが話している場面でジョーンズは言う。

「私の親愛なるおじさん、この善良さ、この優しさが私を圧倒し、落胆させ、だめにします。私の上にこんなに早く流れる楽しい気持ちには耐えられません。またおじさんの前に出られるとは、おじさんの恩恵に浴すとは、私の偉大な、高貴な、私の寛大な恩人によってもう一度このように親切に受け入れられるとは」と（18-10）。

(e)上記と同じ場面で

「おじさんの善良さは怒りの真只中でも表れていましたし、何もかもその善良さのおかげですし、私が一番価値のない男でした」と（18-10）。

(f)ジョーンズに向かってオールワージー氏が言う場面で、オールワージー氏がブリフィルをこらしめようとした時、ジョーンズがオールワージー氏にブリフィルを赦すように言ったのに対して、オールワージー氏は涙ながらに言う。

「おお、私の子供よ、何という善良さに私は長い間盲目であったことか」と（18-11）。

(4)ウェスタン氏

(a)オナー夫人とジョーンズが話している場面で夫人は言う。

「郷土（ウェスタン氏）は激しい感情のままにソフィアにいたずらをするのではないかとすぐ心配です。というのは郷土は驚くほど激情的な紳士だから」と（15-7）。

(b)ウェスタン夫人がウェスタン氏の宿屋についた場面で作者は述べる。

郷土は彼女の名前を聞くとすぐ、彼女を二階に招くためにかけおりて行った。というのは彼はそのような儀式、特に妹に対しては偉大な遵奉者であったし、妹に対してはどんな人間よりも畏敬の念をもって立っていたからと（16-4）。

(c)ウェスタン氏と夫人が話している場面で夫人は言う。

「あなたは自分の気質の中にせっかちなところが少し多すぎるぐらいあると認めなければなりません」と（16-4）。

(d)オールワージー氏とソフィアが話している場面でソフィアは言う。

「父からは残酷な扱いを受けましたが、父はすべての親のうちで一番優しく一番思いやりのある父親です」と（18-9）。

(5)ベラストン夫人

(a)作者は述べる。

彼女の容貌の中にもっていたすべての微笑みの下に、ソフィアに対する怒りを沢山隠していた。ソフィアはベラストン夫人の願いを十分満足させるのには邪魔だったので、何らかの手段でソフィアを取り除こうと決心していたと（15-2）。

(b)ウェスタン夫人とウェスタン氏が話している場面で夫人は言う。

「ベラストン夫人のような大人物と一緒にいる時振舞う行儀作法というものがある」と(15-6)。

(c)ナイチンゲールとジョーンズがベラストン夫人について話している場面で、ナイチンゲールが夫人を徹底的にこきおろしたので、ジョーンズは夫人に対して愛想をつかし、彼の心は自然の変化によってソフィアの方へ向いた。彼女の美德、彼女の純粋、彼女の彼への愛、彼のための彼女の苦しみ、これらが彼の考えをすべて満たし、ベラストン夫人との取引をなお一層いやなものにしたと作者は述べる(15-9)。

(6)フィッツパトリック氏

(a)作者は述べる。

読者はこの紳士の嫉妬深い気質についてすでにしばしば知らされていると(16-10)。

(b)フィッツパトリック氏がジョーンズに喧嘩を吹かけてからあとの様子を作者は述べる。

それから彼は剣を抜いて防御の姿勢をとったが、これは彼が理解する唯一の科学であったと(16-10)。

(7)作者ヘンリー・フィールディング

(a)作者自身について述べる。

ナイチンゲールがベラストン夫人についてジョーンズにしゃべった内容は夫人にとって不名誉なことであるので、身分のあるすべての女性に対して、大いなる優しさから、ここでも繰り返すことはできない。私たちの作品に関する将来の解説者に対して、何か悪意のある応用をする機会や、私たちの頭の中に決してはいって来たことのないスキャンダルの作者に、意に反して、させられる機会を与えることを注意深く避けることにすると(15-9)。

(b)作者自身について述べる。

私はこの物語の全ての登場人物を私の子供と見なしているので、ソフィアに対する偏見の同じ傾向を告白しなければならない。というのは読者は私が彼女の性格の優越性から同じ言い訳をするのを許してほしい。

私がヒロインに対して持っているこの異常な優しさのために最高の嫌気がなければ彼女を長い時間登場させないでおくわけにはいかないと(16-6)。

(8)フェラマー卿

(a)ベラストン夫人とソフィアがいる部屋に召使いがはいって来て、フェラマー卿が応接室でソフィアを待っていると行って出て行った時、ソフィアが夫人に頼む。

「あのいやな男」のあとに( )つきで作者が補足している。(彼女がそう呼んだ、とは言っても少々不当ではあるがと)

(9)オナー夫人

(a)オナー夫人とジョーンズがいる部屋にベラストン夫人がはいって来て一騒動あるところに、ナイチンゲールの息子が部屋を間違えてはいろうとして、ジョーンズと一騒動あり、そのあとオナー夫人も怒ったりして、オナー夫人とジョーンズの関係が混乱している時作者は述べる。

オナー夫人は情熱的であるのと同時に全く寛容であったと (15-7)。

(10) ナイチンゲール

(a) 作者は述べる。

ナイチンゲールはほかの沢山の例でもわかるように、彼の性質にはあまりにめめしすぎるどころがあったので、かなり強いおしゃべりの傾向をもっていたと (15-9)。

(11) サプル氏

(a) ウェスタン氏と妹の夫人が話している場面で夫人は言う。

「サプル氏は物のわかった人で、あなたに一番よい忠告を与えてくれますし、世間の人全部が彼の意見に賛成すると信じます」と (16-4)。

(12) ウェスタン夫人

(a) 夫人が自分自身について言う。

「私ののんびりした性質をあなたは知っていますね。私はこんなにいつものんびりしているわけではありません。私は以前は残酷だったと考えられていました。男の人達からです。私は残酷なバルテニッサと言われました。私の残酷なバルテニッサの詩が書いてある窓を沢山割ったことがあります。ソフィーよ、私はあなたのようにしっかりはしていませんでしたが、以前はあなたのようなところが少しありました。わたしはちょっとだけ変りました」と (17-4)。

(13) ブリフィル

(a) ジョーンズが彼の部屋にはいった時の様子。

彼はベッドに身を投げ出して、絶望のどん底に落ち、涙に泣きぬれていた。それは悔恨から流れるような涙ではないし、誘惑されたり驚いたりした心から悪を洗い流すような涙ではないし、善良な人に対して人間のもろさからたまたま起こるような自然の性質に逆らうのではなくて、この涙はおびえた泥棒が荷車の中で流すような涙であつたし、最も野蛮な性質が自分のためにいつも感じるあの心配の結果である涙であつた (18-11)。

### 3. 主要な語とそのコンテキスト

(1) 善良な, よい (good)

(a) 作者の社会についての考え方。

社会は、厳密に調べてみると、一組の非常に善良な人々の実在にあり、彼らの他愛もない嘘は歓楽と上機嫌 (good humor) を作り出す傾向があるとわかる (15-3)。

(b) ウェスタン氏がソフィアに言う。

「さあ、ソフィーよ、よい子になりなさい。親のいいつけを守りなさい。お父さんをしあわせにしまさい。」と (15-5)。

(c) ジョーンズとオナー夫人が話している場面で、ジョーンズは牧師のサプル氏について言う。

「彼は非常に信心深い善良な人ですが」と (15-7)。

(d) オナー夫人とベラストン夫人が話している場面でオナー夫人は言う。

「私は今まであなたさまのような善良な友人をもったことはありません」と (15-7)。

(e) ミラー夫人とジョーンズが話している場面で作者は述べる。



彼女の善良な天使であるジョーンズは彼女の心配をただちに和らげたと（15－10）。

(f)ハント夫人について作者は述べる。

彼女の年齢は30ぐらいでしたが、彼女は26だと告白したからです。顔と体は大変よくて、ちょっと太りすぎる傾向があるだけでしたと（15－11）。

(g)上記と同じ場面で

大変よい健康と、大変温い体つきと、沢山の宗教のために彼女がまた結婚するのを絶対に必要とした（15－11）。

(h)ウェスタン氏がソフィアに言う。

「さあ、ソフィーよ、ぜひいい子になってくれ、お父さんに面倒をかけるのをやめてくれ」と（16－2）。

(i)ウェスタン氏がソフィアに言う。

「ソフィーよ、お前はぜひいい子になってくれ、そしておばさんの命令は何でもしてくれ」と（16－4）。

(j)パートリッジがミラー夫人に「ハムレット」の芝居の中の王について言う。

「たとえ彼が上手な俳優であり、それをかくすためにできるだけのことをしても」と（16－5）。

(k)上記と同じ場面で

「主よ私を助けたまえ、あんな母親をもった人は誰でも、どんな善良な人でも丁度同じことをしただろう」と（16－5）。

(l)オールワージー氏のソフィアへの心配について作者は述べる。

その善良な人はソフィアの家出によって彼女が甥（ブリフィル）を大変嫌っていることがわかった時、だまされて話をすすめすぎたと真面目に心配し始めた（16－6）。

(m)宗教家のスワッカムがブリフィル氏の動機をキリスト教徒的だと主張して言う。

「この善良な若い紳士は慈善を最後に述べたが、それは彼の最初で主要な考えであると確信している」と（16－6）。

(n)ウェスタン氏について作者は述べる。

フィッツパトリック夫人はその善良な夫人が他の人にしたように、ジョーンズ氏の話にも容易に耳を傾けたことを全然疑わなかったと（16－9）。

(o)フィッツパトリック夫人について作者は述べる。

夫人がジョーンズに示した善良な性質をそのような時に（彼が失敗した時に）持っている人はほとんどないと（16－9）。

(p)女性もっているいろいろな特性について作者は述べる。

もしある女の美しさ、女の機知、女の上品さ、女の上機嫌が推奨に価するならば、それ以上のものをもっていて、私は何に価するのかと（16－9）。

(q)ソフィアについて作者は述べる。

私たちはどこかで彼女のために善良な夫（ブリフィルかジョーンズ以外の誰か）を最後には用意することがありそうであると（17－1）。

(r) オールワージー氏とウェスタン氏が話している場面でオールワージー氏は言う。

「私自身の観察ではソフィアは善良な夫にとって値ぶみできない宝物になるだろうし、彼女の個人的資格は確かに賞賛できるし、彼女の善良な性質、彼女の慈善的気質、彼女の謙虚さはあまりによくいられているので、讃辞は必要でない」と(17-3)。

(s) ソフィアについてのオールワージー氏の言葉。

「実に彼女は男性を理解するのに最高の尊敬の念をいつも表したし、それは善良な妻になるのに絶対に欠くことのできない特質である」(17-3)。

(t) ミラー氏については作者は述べる。

その善良な女性は自分の娘がジョーンズ氏のために大変悩んでいるのを発見したと(17-5)。

(u) ミラー夫人とナイチンゲール氏について作者は述べる。

二人の会話の残りはその善良な女性とナイチンゲール氏のがっかりした気持ちを元気づける共同の企ての中で過ぎて行くと(17-5)。

(v) ミラー夫人について作者は述べる。

この善良な女性は実際世界で一番価値のある女性であったと(17-5)。

(w) ジョーンズとブリフィルについてオールワージー氏は言う。

「この善良な若者に対する憐れな奴(ブリフィル)の忘恩に私は一番腹を立てている」と(17-7)。

(x) オールワージー氏について作者は述べる。

彼はあまりに善良な男であったので、ミラー夫人を動かしたような高貴な原則の結果に実際に気分を害することはなかったと(17-7)。

(y) オナー夫人とベラストン夫人とソフィアについて作者は述べる。

その善良な侍女(オナー夫人)が以前にソフィアに対して持っていた激しい愛情は彼女が新しい女主人(ベラストン夫人)に対して持っていた大きな愛着によって全く消されてしまったと(17-8)。

(z) 旅の一行について作者は述べる。

この最後の巻では善良な一行を手本にするつもりであると(18-1)。

(aa) オールワージー氏とジョーンズの関係についてもナイチンゲールは言う。

「誰も可哀そうなジョーンズ以上にその善良な男性に対する義理を理解できるものはいない」と(18-3)。

(ab) ミラー夫人についてオールワージー氏は言う。

「この善良な淑女は、いや、私を知っているすべての人は私がジョーンズを自分の息子のよう愛したことを証言できる」と(18-3)。

(ac) オールワージー氏とジョーンズについて作者は述べる。

オールワージー氏が最後の演説でジョーンズに関する優しい考えを思い出したので、それがその善良な人の眼に涙をさそったと(18-5)。

(ad) オールワージー氏とミラー氏について作者は述べる。

オールワージー氏はその善良な女性よりも冷静な性質を持っていたと (18-5)。

㊤ミラー夫人について作者は述べる。

その善良な女性は特に友人のサービスのための言葉をいつも用意していたと (18-5)。

㊦パートリッジに向ってオールワージー氏は言う。

「確かに、友よ、君はすべての人間の中で一番不思議な人間だ」とこの善良な人は言った (18-6)。

㊧パートリッジがある弁護士について言う。

「もう一人の弁護士も非常に善良な種類の男であった」と (18-6)。

㊨ミラー夫人がウォーターズ夫人について言う。

「これは優しい善良な女性ですか、人ですか、この発見は全部彼女のおかげですか」と (18-8)。

㊩ソフィアがオールワージー氏に話す。

「あなたは善良で寛大なので、あなたの甥を私がことわったことに腹を立てるような人ではないと信じます」と (18-9)。

㊪オールワージー氏がソフィアに話している場面で

「実際、ウェスタンさん、私は彼（ジョーンズ）をむごたらしく扱いました。実にむごたらしく」と言ってその善良な人は眼を拭った (18-9)。

㊫上記と同じ場面でオールワージー氏は言う。

「お嬢さん、彼が善良な夫になるあの善良な特質を持っていればいいのですが」と (18-9)。

㊬ジョーンズとオールワージー氏が話しているところへ召使いが来て、ウェスタン氏が階下で待っていると言ったのに対してジョーンズがお願いをする。

ジョーンズの眼は涙で一杯だったので、彼が自分を取戻すまで、オールワージー氏がウェスタン氏を数分間もてなすようにお願いしたのに対して、その善良な人は同意した (18-10)。

㊭オールワージー氏とミラー夫人について作者はこう述べる。

彼は自分とジョーンズが夕食に同席することをその善良な夫人に約束しないわけにはいかなかったと (18-11)

㊮ミラー夫人がジョーンズに言う。

「ジョーンズさん、あなたはあまりに善良すぎて、限りなく善良であるので、この世で生活することはできません」と (18-11)。

㊯ウェスタン氏とソフィアが話している場面で

「どうして私は告白するのですか、あなたは私の考えを十分知っているから」とソフィア。「おまえはいい子だ、それじゃ同意するのか」とウェスタン氏 (18-12)。

㊰ジョーンズについて作者は述べる。

ジョーンズの性質の中で悪徳への傾向のあったものはすべて善良な人（オールワージー氏）との絶え間ない会話によって矯正されたと (18-the last)。

以上42の例を紹介したが、ほとんどすべてが人を表すものであり、‘good humour’ ‘good manners’ ‘good principles’ ‘good sense’ など人以外のものは100例近くあるが省略する。な

お、呼びかけの例 ‘my good friend’ ‘my good boy’ は全部で11例ある。

(2)心 (heart)

(a)フェラマー卿がソフィアに向かって言う。

「私の眼は私の心の大変忠実でない解釈者であったにちがいない」と (15-5)。

(b)上記と同じ場面でフェラマー卿が言う。

「どんな言葉が私の心の感情を表現できるか」と (15-5)。

(c)ジョーンズとミラー夫人について作者は述べる。

ジョーンズ氏はその優しい母親にもっと沢山満足を与え、ジョーンズに対する彼女の心をもっと温くしたと (15-10)。

(d)ジョーンズとハント夫人について作者は述べる。

彼の教養が自然の声に永く逆らうことはできなかったし、その声は彼の心の中でそのような友情は愛に対する反逆であると叫んだと (15-11)。

(e)オールワージー氏がブリフィルに説教する場面で

「お前の心を調べてみよ、徹底的に…お前自身の美德と宗教がお前の心からあの悪徳の激情を追い出すと信じる」と言う (17-3)。

(f)ジョーンズとソフィアについて作者は述べる。

彼のソフィアに対する自然の優しさが彼女のあの義理がたい、感謝する、優しい、愛情のある心に影響を与えたと (18-2)。

(g)トマス・スクエアのオールワージー氏への手紙の中で述べる。

あなたが彼 (ジョーンズ) をあなたの家から追い出した時、彼の心は彼自身に対してよりもあなたに対して出血したと信じると (18-4)。

(h)オールワージー氏がウェスタン嬢に言う。

「信じて下さい、ウェスタンさん、私は心から喜んでいきます。あなたが逃げたことを喜んでいきます」と (18-9)。

(i)上記と同じ場面でソフィアが言う。

「父の心配や恐怖が何であっても、もし私が自分の心を知っていたら、心配の種は作らなかったでしょう」と (18-9)。

(j)ソフィアとオールワージー氏が話している時、ウェスタン氏が部屋に跳びこむ場面

ドアの外でウェスタン氏が娘の心の最後の感情を聞いて、怒り出して、ドアを開けて跳びこむ (18-9)。

(k)ミラー夫人とジョーンズがいる場面で夫人は言う。

「私はジョーンズ氏の中に心の大きな善良さを発見しました。そのために真面目な尊敬の念を持っていました。しかし全く墮落した態度は世界で一番善良な心も腐らせるものです」と (18-10)。

(l)オールワージー氏とミラー夫人とジョーンズがいる場面でオールワージー氏は言う。

「私はお前の心の善良さと物わがりのよさには全く驚いている」と (18-11)。

(m)ソフィアがジョーンズに言う。

「もし私が過去によって未来を判断することができれば、私があなたの眼の前を去っていったら、私のイメージはあなたの心の中に残らないでしょう」と (18-12)。

以上心 (heart) の例を紹介した。まだ26例あるが省略する。

(3) 一番よい、最善の (best)

(a) フェラマー卿とベラストン夫人が話している場面でフェラマー卿がソフィアについて言う。

「彼女はイギリスで一番よい結婚相手であると思う」と (15-2)。

(b) ソフィア・ウェスタンのジョーンズへの手紙の中で

「私は父親の中で一番よい父に決して同意できないことが一つあります」と書く (16-5)。

(c) 「ハムレット」の芝居を見ている場面でミラー夫人が言う。

「ハムレットは舞台に登場する役者の中で一番上手な役者が演じます」と (16-5)。

(d) 親について作者が述べる。

一番善良な親でも子供への厳格な公平さを守ることはほとんど不可能であると (16-6)。

(e) プルータークについて作者は述べる。

私たちの兄弟歴史家の中で一番よい歴史家であるプルータークの実例に私たちは従うと (17-2)。

(f) オールワージー氏がソフィアについて言う。

「彼女は女性の中の一番よい女性の中ですぐれている特質を一つもっている」と (17-3)。

(g) ウェスタン夫人がソフィアに向かって言う。

「私があなたをそそのかしてイギリスで一番よい結婚をことわったと世間の人に決して言われたくない」と (17-4)。

(h) ジョーンズがミラー夫人に向かって言う。

「あなたさまは女性の中で一番よい女性です。私に対する義理のことを言わないで下さい」と (17-5)。

(i) パートリッジがある法律関係の紳士について告白する。

「彼は私が知っている中で一番善良な紳士でした」と (17-6)。

以上一番よい (best) の例を9例紹介したが、(1)よい (good) の例のように、人を表すものだけである。あとは27例だがすべて人間以外のものを修飾している例であるので省略する。

(4) 心 (mind)

(a) ベラストン夫人から手紙をもらった時のジョーンズの心について作者は述べる。

束縛の身分を経験した人なら最も軽いと認める束縛からの解放にジョーンズは満足したが、それでも心の中は完全に落ちついてはいなかったと (15-9)。

(b) オナー夫人への手紙の中でジョーンズは述べる。

オナー夫人による説明を見て、私の心の恐怖を描く努力をどんなに難しくてもしてみますと (16-3)。

(c) 上記と同じ手紙の中で

私を捨てること以外にあなたのお父さんをなだめて、あなた自身の優しい心の平和をとりも

どす方法がないならば… (16-3)。

(d) ジョーンズがソフィアの手紙を読んだあとの心持を作者は述べる。

手紙が引き起こした感情は喜びと悲しみの混じったものであり、善良な人が死んだ友人の遺書を読む時彼の心を分けるものに幾分似ていたと (16-5)。

(e) ウェスタン氏について作者は述べる。

ウェスタン氏が娘から受け取った突然のニュースに投げこまれた彼の心の最初の混乱の中で… (16-6)。

(f) フェラマー卿の心について作者は述べる。

愛がフェラマー卿の心の中に深く根づいていたので、ウェスタン氏の荒っぽい手で引き抜くことはできなかったと (16-8)。

(g) フィッツパトリック夫人について作者は述べる。

この瞬間から仕返しの願いが彼女の心を満たしただけだったし、この気分で芝居のところでジョーンズに会ったので、この目的を効果的にする機会が起こるように彼女には思われたと (16-9)。

(h) ジョーンズが警察官に言う。

「私は法の眼では殺人の罪はないと確信しているが、血の重さは私の心には耐えられないと思っている」と (16-10)。

(i) ソフィアの手紙を読んだあとのジョーンズについて作者は述べる。

ジョーンズ氏の心の現状について、そして彼が今苦しんでいる苦悶について、彼の惨めさはスワッカムが彼にほとんど同情するほどのものであったと言うこと以上によい考えを読者に与えることはできないと (16-10)。

(j) オールワージー氏とウェスタン氏がジョーンズについて話している場面でウェスタン氏は言う。

「私は人生でこんなによいニュースを聞いたことがない。あらゆるものが私の心に行くと保証する」と (17-3)。

(k) ベラストン夫人のジョーンズについての心を作者は述べる。

ソフィアは確かにジョーンズに対して怒っていたし、実際にベラストン夫人も大いに怒ったが、彼女の優しい心には他の人に与えるものはほとんど残っていなかったと (17-6)。

(l) ソフィアのジョーンズに対する心を作者は述べる。

彼女が表情に愉快さを無理に表すことがどんなに難しかったことか、彼女の心が最も優しい悲しみ以外に何も支配していなかった時だし、あらゆる考えが苦しい考えで満ちていた時だったからと (17-6)。

(m) ソフィアとフェラマー卿が話している場面でソフィアは言う。

「あなたはあらゆる親切な考えや願いをたやすく受け入れるかも知れません。というのは確かに寛大な心にとっては私の要求を認めるのはたやすいにちがいないからです」と (17-8)。

(n) オールワージー氏の心について作者は述べる。

ミラー夫人の答えが私たちを新鮮な問題に導くかも知れないので、私たちはここで立ち止

まってオールワージー氏の心の中の目に見える変化と彼のジョーンズへの怒りの減少を述べることにすると (18-3)。

(o) トマス・スクエア氏が手紙の中で述べる。

「福音書が私たちに与えるあの世についての確信は自然の必要性から…死の考えに我慢する頑固な忍耐で私たちの心を時々武装することができるあの宣言の話題から引き出されるすべての慰め以上に善良な心にとってはるかに強い支えである」と (18-4)。

(p) ブリフィルがジョーンズに会っている場面で作者は述べる。

ブリフィルはまだすべてを否定すべきかどうかを心の中で決めかねていて、最初はむっつりとして黙っていたと (18-11)。

(q) パートリッジがジョーンズに話す。

「私はあなたさまに私の心の中にあるものをいつも話しましたし、それはあなたさまがいつか私の幸運にすることができるものです」と (18-11)。

(r) ミラー夫人とジョーンズが話している場面で夫人は言う。

「人間の心はだまされるかも知れませんが、それを防ぐ誤りのない方法は何もありません」と (18-12)。

(s) ソフィアがジョーンズに話す。

「あなたは私のそばにいて、あなたの心も変わっていることを私に納得させる機会をもう望まないでしょう」と (18-12)。

(t) 結婚式を前にしたソフィアについて作者は述べる。

ソフィアの体も心も飾るどんな魅力も不安を引き起こさなかったと (18- the last)。

以上心についての例はあと15あるが省略する。

(5) しあわせ、幸福 (happiness)

(a) 美德と悪徳に関する文の中で作者は述べる。

美德はすべて幸福に貢献し幸福に導くので、私は古代の聖人、現代の聖人すべてに反して、美德を美德の名によるよりもむしろ英知の名によってそう呼びたいと (15-1)。

(b) 上記と同じ文の中で

もし美德によってある相対的特質を意味するならば、私はこれが幸福への最も正確な方法であるということににわかに賛成しかねる、というのは私たちの幸福の考えの中に…すべてのいたずらと一緒に貧乏と軽蔑を含めなければならないのではないかと心配するからである。否、時には私たちは上述の幸福に刑務所まで行って仕えなければならないだろう (15-1)。

(c) ハリエット・フィッツパトリックがウェスタン夫人への手紙の終わりで述べる。

あなたの友情は私の以前の幸福の大部分になっていたし、私の未来の幸福に非常に必要ですと (15-6)。

(d) オナー夫人とジョーンズが話している場面で夫人は言う。

「幸福は人々が持っているものにいつも依存するとは限りません」と (15-7)。

(e) ジョーンズについて作者は述べる。

彼は誰かの悲惨または幸福に無関心な観客では決してなかったと (15-8)。

(f)ソフィアとウェスタン氏について作者は述べる。

彼女の人生の将来の幸福はすべて彼女が彼の好みとは独立した女性であったということであると (16-2)。

(g)ジョーンズがソフィアへの手紙の終わりの部分で述べる。

信じて下さい、ソフィア、私は自分自身よりあなたを真面目に愛しているので、私の大きな主な目的はあなたのしあわせですと (16-3)。

(h)フェラマー卿とベラストン夫人について作者は述べる。

フェラマー卿は夫人がその事件で果たした役割に心から感謝し、彼の将来の幸福はすべてその成功に依存していたと (16-8)。

(i)ジョーンズとソフィアについて作者は述べる。

私たちの二人のお気に入りとその悩みと苦しみから救い出して、二人を最後にしあわせという岸边に上陸させることははるかに難しい仕事に思われると (17-1)。

(j)ウォーターズ夫人がジョーンズへの手紙の終わりで述べる。

ああ、ジョーンズ様、私がアプトンであのしあわせな日を過ごした時、私のこのような完璧なしあわせを誰のおかげかほとんど考えもしませんでしたと (18-2)。

(k)ミラー夫人とジョーンズについて作者は述べる。

彼女のジョーンズへの友情は普通ではなかったので、彼女が彼のために受けた不安よりも、彼女自身の家族のしあわせになるニュースを聞いた時の彼女の満足の方がまさっていなかったかどうか私には自信がないと (18-3)。

(l)オールワージー氏とジョーンズが話している場面でジョーンズが言う。

私の処罰が軽かったためにおじさんが今私に与えて下さるこのしあわせに価するように私の将来の人生を生きることがすべての仕事です」と (18-10)。

(m)上記と同じ場面でオールワージー氏が言う。

「おまえはあの過ちをすべて捨ててしまったので、今眼の前にある眺めはすばらしいので、しあわせはおまえの力の中にあるようだ」と (18-10)。

(n)ソフィアとジョーンズが話している場面でソフィアが言う。

「あなたが私に向って真面目だと告白した感情を私は信じることができますか、もし信じることができるとすれば、あんなむら気のある男と一緒にいてどんなしあわせを確信することができますか」と (18-10)。

(o)上記と同じ場面でジョーンズが言う。

「ソフィアよ、そんな冷たい言葉（「気楽だ」という言葉）で私のこんな大悦びのしあわせを呼ばないで」と (18-12)。

(p)オールワージー氏とウェスタン氏が話している場面でオールワージー氏は言う。

「私の甥も私も彼のしあわせがこんなに近づいて来るのを疑う前にもう約束をしてしまった」と (18-12)。

(q)オールワージー氏、ミラー夫人などについて作者は述べる。

オールワージー氏とその一行がミラー夫人の幸福を完成するために到着したのはこんな情況



の時だったと (18－ the last)。

(r)上記と同じ場面で作者は述べる。

ミラー夫人のジョーンズへの友情は非常に大きかったもので、そのために自分の娘のしあわせについても夫人の喜びはひとしおであったと (18－ the last)。

(s)作者は最後に述べる。

ソフィアのような女性を妻に迎えてこの世はどんなしあわせを (ジョーンズに) 与えるか私は今までに発見したことがないと真面目に告白すると (18－ the last)。

以上しあわせ、幸福についての事例はあと7あるが省略する。

なお以上のほかに主要な語は spirit(s) (23例), goodness (22例), happy (18例), love (17例), passion (13例) あるが紙数の関係で省略する。

#### 4. 格言またはそれに類似した表現

(a)ある賢い老紳士がよく言っていたのを覚えていると作者は言う。

「子供が何もしていない時は、いたずらをしている」と (15－ 2)。

(b)愛について作者は述べる。

愛は、火のように、一度十分火がつくと、すぐ炎となって燃え上がると (15－ 2)。

(c)ベラストン夫人とフェラマー卿が話している場面で、フェラマー卿がソフィアのことをとても値ぶみできないぐらいの宝石といったのに対してベラストン夫人は言う。

「この値ぶみできないぐらいの宝石というのは女が身につける宝石のように聞く耳がないのです。時間ですよ、時間こそが女の愚かさを治す唯一の薬です」と (15－ 2)。

(d)ベラストン夫人とフェラマー卿が話している場面で夫人が言う。

「ヘレンの物語が現代的であるならば、私は不自然だと思います。パリの振舞いを言っているのであって、好みを言っているのではありません。というのは女はみんな元気のある男性を愛するから」 (15－ 4)

(e)ウェスタン氏と夫人がいる場面で夫人が言う。

「最も思慮深い政治家は底まで見抜くが、水面を泳ぐものと違った事態の局面をしばしば発見する」と (15－ 6)。

(f)ウェスタン氏と夫人がいる場面でウェスタン氏が言う。

「あなたは女性が法律より上であると言うけど、それは嘘であって、誰も法律より上ではないと裁判官が裁判で言うのを私は聞いたことがある」と (15－ 6)。

(g)オナー夫人とジョーンズがいる場面で、ジョーンズは「ソフィアがブリフィルと結婚させられたのを見るのはささいな事」と言ってから、次のように言う。

「命ある間希望はいくつもある。この自由の国の女性が野蛮な暴力で結婚させられることはない」と (15－ 7)。

(h)上記と同じ場面で夫人は言う。

「お互いに愛している二人がしあわせでないなら、なぜ誰がしあわせになるのでしょうか。しあわせな人は持っているものによるとは限らない」と (15－ 7)。

(i)上記と同じ場面で夫人は言う。

「もし結婚が天国で行われるなら、地上の治安判事はそれをこわすことはできない」と(15-7)。

(j)パートリッジとジョーンズが話している場面でパートリッジは言う。

「悲しみほど沢山人間を変えるものは何もない」「悲しみは人間の髪の色を一晩で変えるものだ」「すべての人がその学問によってこの世で栄えるとは限らない」と(15-12)。

(k)ウェスタン夫人とウェスタン氏が話している場面で夫人は言う。

「自由な国の女はそのようなわがまま勝手な力で取扱われるべきではない」と(16-4)。

(l)上記と同じ場面で夫人は言う。

「一人の女の頭は男の1000人に価する」と(16-4)。

(m)ジョーンズがソフィアから手紙をもらって読んだあとの心の状態を作者が書いたのち恋について述べる。

恋は病気であり、ある例では肺病に似ているかもしれないし(恋は時々肺病を引き起こすから)、ほかの例では正反対に進むし、特にこの点即ち恋は決してうぬぼれないし、好ましい点では病気に何らの徴候も見ないという点で(16-5)。

(n)プラトニック・ラブについて作者は述べる。

肉から絶対に離れて、実際に、全く純粋に精神的であるあの洗練された程度のプラトニック・ラブは天地万物の中で女性に与えられた贈物であると(16-5)。

(o)ウェスタン氏がソフィアをブリフィルと結婚させることについて作者は述べる。

実際に彼はこの若い娘を結婚させることによって強欲とちがう強い激しい感情の満足を目論んでいた。それは憎しみであった。というのは結婚とは憎しみか愛かを満足させる同じ機会を与えるものと結論づけたからだし、この意見は沢山の経験によって恐らく証明されるからである。実を言うと、もし私たちが結婚した二人のお互に対する普通の振舞いによって判断するとすれば、一般の人は心以外のあらゆる物の場合において前者の感情(憎しみ)だけの満足を探し求めると結論しがちであると(16-6)。

(p)ウェスタン氏、ウェスタン夫人、ブリフィルがいる場面で夫人は言う。

女は微妙にできている物だから、私たちの気持ちが乱れてしまうと、一瞬のうちにもとにもどることはできないと(16-7)。

(q)ベラストン夫人がウェスタン夫人に向って言う。

「私は結婚していません、約束します。すでに一度は慰めを試してみたことはあるけれど、理性的な女にとっては一度で十分と思う」と(16-8)。

(r)結婚問題で女と男の関係について作者は述べる。

男性の所有を一度喜んだ女性は他の女性が同じことを楽しまないように、悪魔への道を半分以上進むものであると(16-8)。

(s)フィッツパトリック夫人とジョーンズがいる場面で夫人は言う。

「年輩の女性の顔色がなまめかしい時、その女性を愛の告白でだますことほどたやすいことはないと思う」と(16-9)。

(t)男女の美しさについて作者は述べる。

両性の完璧の美しさは一般に考えられている以上に抵抗できない対象であると (16-9)。

(u)フィッツパトリック夫人がジョーンズに言う。

「そのような情熱に対して、そのような人に対して、お返しをしない女性は両方 (情熱と人) に値しない」と。「本当の優しさの中に魔法をかけたような何かがあるし、ほとんどの女性が男性の中のそんなものに出会わないし、たとえ出会ってもその評価の仕方をまだ知らない」と (16-9)。

(v)ブリフィルがジョーンズをくさしたのに対してオールワージー氏が言う。

「慈善はその対象の悪徳を取り入れない」と (17-2)。

(w)オールワージー氏とブリフィルとミラー夫人がいる場面で夫人は言う。

「私たちは (ジョーンズの) 赦しを必要とするぐらいすべての罪を持っている」と (17-2)。

(x)オールワージー氏とウェスタン氏とブリフィルがいる場面でオールワージー氏が言う。

「女性の同意とか賛成なしに女性を無理に結婚させることは不正と圧力の行為であるので、わが国の法律がそれを抑制できればよいと思う」と (17-3)。

(y)上記と同じ場面でオールワージー氏は言う。

「十分な方法で結婚の義務を果すことは全然たやすい仕事ではない」と (17-3)。

(z)上記と同じ場面でウェスタン氏は言う。

「なるほど、自分自身の子供を知っているのは賢い父親であると言うが、私は娘に対して最上の称号を持っていると信じる、というのは私が娘を育てたから」と (17-3)。

(aa)オールワージー氏とブリフィルがいる場面でオールワージー氏が言う。

「女の中にある嫌悪感は忍耐によって征服されるかもしれないというのは確かに一般的な誤りである。恐らく無関心は時には忍耐に負けるかもしれないが、忍耐によって得られる恋人の中にあるいつもの勝利は気まぐれ、用心深さ、気取り、そしてしばしば異常な軽率さに対してである。…一定の嫌悪感は時間によって征服されるというよりはむしろ力を強めるものである」と (17-3)。

(ab)ウェスタン夫人とソフィアが話している場面で夫人は言う。

「王国と国家は、タリー・キケロが彼の書簡の中で言っているように、変化をするし、そのように人間も変化しなければならない」と (17-4)。

(ac)妬みについて作者が述べる。

実を言えば、同情の欠如は一般的な欠点の中には数えられない。私たちの性質を汚す黒い成分は妬みである。故に、私たちの眼はある程度の悪意なしに、私たち自身よりも明らかに偉大で、善良で、賢明で、幸福である人には向かないのではないか。一方私たちは十分な慈悲と同情をもって卑しい人悲惨な人を大抵見下す。事実、私の観察の範囲であるが、友情の中に発見される欠点の大部分は妬みだけから生じていると述べて来たし、地獄のような悪徳、しかも私が知っている人で悪徳から絶対に免れている人はほとんどいないと (17-5)。

(ad)女性のデリカシーについて作者は述べる。

女性はある程度のデリカシーがある、というのはそのデリカシーがあるために男性の前では

気楽になれないし、男性には女性がどうしても好きになれない見せかけがあるということを知っているから（17－6）。

㊤ミラー夫人がオールワージー氏に会っている場面でオールワージー氏は

「性格の中に善のひとかけらもないほど絶対に悪い性格はない」と言うのに対してミラー夫人は「時はすべての問題をその真実の自然の色合いで示すものである」と言う（17－6）。

㊦物語の中の出来事について作者は述べる。

人生における最大の出来事は精密な一連の小さな状況によって作り出されると（18－2）。

㊧スクエア氏の手紙の中で

「哲学の大きな効用は死ぬことを学ぶことである」と述べる（18－4）。

㊨上記の中で

「あの世の存在の確信は自然の必要、喜びの空虚さあるいは満足感、その他の話題以上に善良な心にははるかに強い支えである」（18－4）。

(i) 真実と虚偽について作者は述べる。

真実を隠し虚偽を擁護することを仕事にしている人を不意に襲う質問ほど危険なものはないと（18－5）。

(j) 同情について作者は述べる。

同情に値しない人に対する同情は犯罪であると私は認めると（18－5）。

㊩オールワージー氏、ミラー夫人、ブリフィルがいる場面で作者は述べる。

悪魔は自分の友人を見捨ててしばしば窮地に追い込むと（18－5）。

(l) 上記と同じ場面で作者は述べる。

征服された謀反が政府を強化するように、そして健康がある病気の快復によって完全に確立されるように、そのように怒りが除かれると、しばしば愛情に新しい生命を与えると（18－5）。

㊪オールワージー氏とパートリッジがいる場面でオールワージー氏が言う。

「悪徳と破廉恥はなんとみじめな苦しみの中に人々を巻きこむことか、私たちの意図をこえて邪悪の結果がどんなに沢山運ばれていくことか」と（18－6）。

㊫オールワージー氏とウォーターズ夫人がいる場面で夫人が言う。

「一人の男に節操を固くして生活する女は、儀式ばった個人の婚約のあとは、世間がその女を何と言おうとも、彼女自身の良心を責めるものはほとんどない」と（18－8）。

㊬上記と同じ場面でオールワージー氏が言う。

「時間と忍耐は憐憫の情への嫌気にも勝つものであり、たとえ懺悔する罪人を天のように受け入れる用意がなくても、絶え間ない悔い改めはついには世間と共に慈悲を得るものである」と（18－8）。

㊭上記の場面のあと作者は述べる。

善良さは人間性以上に神性の味がすると（18－8）。

㊮オールワージー氏とドウリング氏が話している場面で、ブリフィルが言ったとドウリング氏は言う。

「血は血を必要とする。殺人者を隠す人だけでなく、裁判にできるものを省略する人も殺人

者の罪の共犯者である」と(18-8)。

(ii) 上記の場面のあと作者は述べる。

「人間は真実の言葉で嘘をつくことができる」と(18-8)。

(iii) オールワージー氏とソフィアが話している場面でソフィアが言う。

「無関心な人と生活することは悲惨な状態であるに違いない」と(18-8)。

(iv) 上記と同じ場面でソフィアが言う。

「父の同意なしに決して結婚をしないというのがいつも以前から心に決めていたことです」と(18-8)。

(v) 人間の性質について作者は述べる。

性質の激しすぎる人は大抵心が変わりやすいと(18-8)。

(vi) オールワージー氏とジョーンズが話している場面でオールワージー氏が言う。

「用心深さは私たち自身が必要とする義務である」と(18-8)。

(vii) オールワージー氏とジョーンズが話している場面でオールワージー氏は言う。

「悪事が一旦ばれると、取り返しがつかないし、悪事が残す汚点を時は決して洗い流すものではない」と(18-8)。

(viii) ウェスタン氏がジョーンズに話す。

「過ぎたことはすべて赦されなければならない。…一人のキリスト教徒はもう一人のキリスト教徒を赦して忘れなければならない」と(18-10)。

(ix) ジョーンズがオールワージー氏に話す。

「運命の女神はあまり悪い性質を持っていない人を不正をするように誘惑するかもしれないが、侮辱は黒い悔みのある心からだけ出てくるのであって、悪い心を誘惑して赦すことはしない」と(18-10)。

(x) オールワージー氏がジョーンズに話す。

「不正直が残酷、殺人、忘恩などのような何か黒い犯罪を伴う時、同情と容赦は欠点になる」と(18-11)。

(aaa) ソフィアがジョーンズに話す。

「真面目な悔い改めは罪人を赦すものであるが、それはその真面目さの完璧な裁き手である神から来るものである。…人間の心はだまされやすいし、それを防ぐ全く誤りのない方法はない」と(18-12)。

## 5. 最上級表現とそのコンテキスト

(a) 第15巻第1章の序文で作者は述べる。

ジョーンズ氏が彼の仲間たちを破滅から守る努力をしながら最も高潔な役割を演じている間、悪魔あるいは何かほかの悪霊、恐らく人間の肉をまとったものが彼のソフィアの破滅の中で彼を完全に悲惨にする働きを熱心に行っていたと(15-1)。

(b) 上記と同じ序文で

キリスト教的でないし、真実でもない人生に関する教義は、理性だけが不滅の信仰に対して

与えることができる最も上品な議論を、実際に破壊している (15-1)。

(c)ベラストン夫人、フェラマー卿、ウェスタン嬢、トム・(エドワーズ) がトランプをしている場面でトムが言う。

「今朝決闘があつて人が殺された。殺されたのは街へ来たばかりのサマーセットシアの青年とかで、名前はジョーンズと言ひ、オールワージーさんの遠い親戚で、コーヒーハウスで彼が死んで横たわっているのを見た。確かに彼は私の人生で見た一番すばらしい死体です」と (15-3)。

(d)ベラストン夫人とソフィアが一緒にいる場面でソフィアがフェラマー卿を「いやな男」と言ったのに対して、夫人が彼を弁護する。

「あの人は街では一番丁寧な若者です。少し丁寧なところがあるだけです」と (15-3)。

(e) 4章の終わりで作者はのべる。

「ここで (ベラストン夫人とフェラマー卿の) 対話を終つて、可哀そうにソフィアの破滅のために万事準備してある致命的な時間に急ぐことにする。

しかしこれは物語全体の中で最も悲劇的な事件であるので、次の章で取扱うことにする」と (15-4)。

(f)ソフィアがフェラマー卿にレイプされる直前に部屋に跳びこんできたウェスタン郷土について作者は述べる。

彼はソフィアを口ぎたなくののしたが、その態度は最も執念深いものであつた。もし牧師が止めなければ、ウェスタン氏は両手で暴力を振るうところだつたと (15-5)。

(g)上記と同じ場面に帰ってきたベラストン夫人に向つてウェスタン氏は言う。

「ほら、あそこに世界で一番親不孝な子供が立っている。乞食のような悪漢を追いかけているから、イギリスで一番盛大な結婚式をあげることはしない」と (15-5)。

(h)上記と同じ場面でベラストン夫人がソフィアに言う。

「あなたはお父さんを傷つけたんですよ。お父さんは今度の結婚はあなたのためだけを考えていらっしゃるんです。私もあなたの友人全部も結婚の申し込みがあなたの家庭にとって最高の名誉だと認めます」と (15-5)。

(i)上記と同じ場面でベラストン夫人はフェラマー卿について言う。

「あの方は身分も財産も一流の貴族ですし、昨日あなた (ウェスタン氏) の娘に結婚の申し込みをしたんです。だから最高の喜びで受けてください」と (15-5)。

(j)オナー夫人とジョーンズがいる場面で夫人はソフィアについて言う。

「彼女は私にとって一番優しい女性でした」と (15-7)。

(k)上記と同じ場面で夫人は言う。

「あなたは世界で一番優しい女性を失ったからといって私はあなたを非難はしない。同情されるのはあなたも私も同じです。二人に最悪の事態が起こったのです。お父さんが街へやってきて彼女 (ソフィア) を連れ去ったからです」と (15-7)。

(l)上記と同じ場面でジョーンズが言う。

「一番恐ろしい突然の事件がソフィアに起つたとは想像するけど、それに比べると、ソフィ

アがブリフィルと結婚させられたのを見るのはささいなことです」と(15-7)。

(m)オナー夫人とジョーンズがいる部屋にベラストン夫人が侵入して来た。幸運にもオナー夫人はベッドのうしろに隠れることができたが…。

この瞬間ジョーンズは一番不愉快で困惑した状況の中にいた(15-7)。

(n)上記と同じ場面で

この場面ほど喜劇的あるいは悲劇的なものは想像できない(15-7)。

(注)英語の構文は Nothing ~ more ~ than

(o)上記と同じ場面でナイチンゲールの息子がジョーンズの部屋を自分の部屋と勘違いしてはいつて来たので、二人の間で、一騒動あったが、部屋の中ではベラストン夫人がヒステリーを起こすし、隠れていたオナー夫人も怒り出した。その時

ジョーンズは世界で一番不運な男として自分の星を呪い自分自身を嘆き始めた(15-7)。

(p)ナンシー嬢とナイチンゲール青年が結婚式をあげる場面で作者はナンシー嬢の母親について述べる。

ナンシー嬢が式場で、下品な言葉で言うと、正直な女にすぐさせられたので、心配していた母親は、最も純粋な意味で言うと、すべての人間の中で一番しあわせな人間になったと(15-8)。

(q)上記と同じ場面で作者はジョーンズについて述べる。

彼は自分自身に大きな幸福をもたらすことなしに悲惨の最低の状態から喜びの最高の高さである家族全部を引き上げる道具になることはできなかったし、それは世俗的な人が最も厳しい労働を経験することによって、しばしば最も深い罪悪の中を泳ぎ渡ることによって、自分自身に買い求めることのできないものだったと(15-18)。

(r)ナイチンゲールとジョーンズがベラストン夫人について話している場面でジョーンズは夫人について言う。

「最も甘い空気でも彼女の名誉ほど純粋ではないし、澄んだ流れも彼女の名誉ほど澄んではない。彼女は心身共にすべてにおいてこの上もなく完璧であり、彼女は宇宙で一番美しい人であり、非常に上品で高潔な性質を持っている女性であるので、彼女は美しさを見る時以外はほとんどその美しさを思い出さない」と(15-18)。

(s)ナイチンゲールは彼の計略(ジョーンズとベラストン夫人との関係をこわすこと)がうまく行ったあと、ジョーンズに呼びかける。

「トムよ、私たちはお互いに異なった義務を与えあった。私のおかげで君は自由を取りもどしたし、君のおかげで私は自由を失った。でももし君がわたしのようにしあわせであるなら、私たち二人はイギリスで一番しあわせなものであると約束するよ」と(15-9)。

(t)オナー夫人がソフィアからの手紙を持ってくるかどうかいらしているジョーンズについて作者は述べる。

このいらだちが、最悪を知ることを願い不確実を最も耐えられないものにする人間の心の生来の弱さから起こったのかどうか、そして彼がある秘密の希望をまだひそかに持っていたかどうかを私たちは決定しない。しかしそれ(心の弱さ)が最後かもしれないということを愛した

ことのある人は誰でも知らざるをえない。というのはこの激しい感情によって私たちの心に働くすべての力のうち、最もすばらしいものは絶望の中で希望を支える力であるからと(15-10)。

(u)ベラストン夫人のソフィアに対する感情を作者は述べる。

夫人は可哀そうなソフィアを最も執念深い憎しみで憎んでいたのです、自分自身に対する相互の憎しみが私たちのヒロインの優しい胸の中に住んでいると考えていたと(15-10)。

(v)アラベラ・ハント夫人からジョーンズへの手紙の中で夫人は書いている。

あなたは男の中で最も愉快であるだけでなく最も価値がありますと(15-10)。

(w)ソフィアの部屋でウェスタン氏が彼女にブリフィルとの結婚を次のようにお願いする。

「ブリフィルが来たらすぐ彼と結婚すると約束してくれ。そうすればおまえは私を世界で一番しあわせな男にしてくれるし、私はおまえを一番しあわせな女にしてやる。ロンドンで一番すばらしいドレスを買ってやるし、一番すばらしい宝石も買ってやる」と(16-2)。

(x)上記と同じ場面でソフィアが言う。

「父上の好みに合うようにすべての人生の中で最もみじめな人生に耐える決心をしたばかりです。…あの最も憎むべき最も忌むべき運命を受け入れることにします。…もししあわせは考え方にあることが本当なら、私が地上のあわれむべき者すべての中で最もみじめだと自分を思う時、私の状態はどんなふうになるのでしょうか。私はパパが活着ている間、パパの同意なしに彼(ジョーンズ)ともほかの誰とも決して結婚しないと最も厳粛な約束をします」と(16-2)。

(y)ウェスタン氏について作者は述べる。

彼は娘を本当に可愛がったし、彼女になんらかの快楽を与えることが彼の人生の最高の満足であったと(16-3)。

(z)ソフィアについて作者は述べる。

若鳥、うずら、きじの卵はソフィアの一番お気に入りのご馳走であったと(16-3)。

㉔ジョーンズがソフィアへの手紙の中で書く。

この一番優しい性質は、私のソフィアが一番高い程度に持っているのですが、彼女のジョーンズがこの憂鬱な機会に苦しんだにちがいないものを彼女に十分知らせることができますと(16-3)。

㉕上記と同じ手紙の中で

最も完全な賞賛、最も注意深い観察、最も熱心な愛、最もとろけそうな優しさ、あなたの意志への最も観念した服従でも、私のしあわせに対してあなたが犠牲にできるもののつぐないをすることができるのでしょうか。…私の最初の願いはあなたがどんな時でも女の中で最もしあわせな女であるのを見ることでしたし、見ることです(16-3)。

㉖ウェスタン氏と妹が話している場面で彼女は言う。

「あなたのへまによって私の一番賢明な陰謀をこわさないように、あなたは自分の行いを改めて、過去の失敗から沢山の経験を学んでほしいと思います」と(16-4)。

㉗ウェスタン氏とその妹とサプル牧師がいる場面でウェスタン氏は言う。

「ここにいる牧師は正しく判断できますが、あなたがこの世で一番思慮深い女であるとあな



たのいないところで私は50回言ったんです」と(16-4)。

㊤ソフィアがジョーンズへの手紙の中で書く。

私は父親の中で一番善良な父に同意できないことが一つありますが、私は父に逆らって行動しないように、また彼の同意なしに重要な手段を取らないように固く決心していますと(16-5)。

㊦パートリッジ、ジョーンズ、ミラー夫人、その末娘がハムレットの芝居を見ていて、墓を掘る場面で舞台に骸骨が投げられるのを見て驚いたパートリッジに対してジョーンズが答える。

「あれは街で一番有名な埋葬の場所です」と(16-5)。

㊧上記と同じ場面でミラー夫人とパートリッジのやりとり。

「あなたは街の一般の人が持っている意見と同じではありません。だってハムレットは舞台上で一番上手な役者によって演技されるからです」「あいつが一番上手な役者だって！私だったら彼と同じくらい上手に演技ができる」と(16-5)。

㊨親の子に対する愛情について作者は述べる。

一番善良な親でも子供に対して厳密な公平無私を守ることはほとんど不可能である。たとえどんなすぐれた長所も親の愛を一方的にすることはなくともと(16-6)。

(ii)ソフィアについてフィッツパトリック夫人がジョーンズに言う。

「確かに彼女はそのような長所を見落とすことができる女性の中で一番軽蔑すべき女性です」と(16-9)。

(iii)喜劇作家と悲劇作家について作者は述べる。

喜劇作家が主要人物をできるだけしあわせにした時、あるいは悲劇作家が主要人物を人間的悲惨の最高のところまで連れて来た時、両作家とも彼らの仕事はできた、彼らの務めは終わったと結論すると(17-1)。

㊩ジョーンズがフィッツパトリックとの対決の結果窮地に陥っている場面でそれを抜け出す方法を作者は述べる。

事実を告白すれば、ジョーンズは自分の運命の最悪を知らないし、彼がまだ聞いたことのないどんなニュースよりも衝撃的ニュースは宿命のまだ開けてないページの中に彼のために残っていると(17-1)。

(iii)オールワージー氏、ミラー氏、ブリフィル氏がいる場面でオールワージー氏は言う。

「あなた(ミラー夫人)のジョーンズについての考えは男の中の一番邪悪な男から来ているので、その考えは彼に対する私の怒りを高めるのに役立つだけだ。ミラー夫人よ、あなたに言うておくけど、あなたの前に今立っている青年はあの恩知らずのあわれな奴の一番温い擁護者であつたのだ」と(17-2)。

㊪上記と同じ場面でミラー夫人は言う。

「私が今までと違った役を演じて来たら(というのはジョーンズに不利なことを言ったりし  
たら) 私は男の中の……」

いとあなたは想像しているでしょう」と(18-5)。

「善悪の判断は最悪の規制された状態でも無法ではない」と(17-3)。

㉔上記と同じ場面でオールワージー氏は言う。

「私はこの若い女性の好みが最も不幸なことに甥とは反対であることがわかるので、あなたが意図している名誉についての考えを私はやめなければならない。とは言っても私は名誉について最も感謝すべき意識をいつも持ちつづけることを保証する」と(17-3)。

㉕上記と同じ場面でブリフィルが言う。

「女性が私に対してどんなに残酷であっても、私はいつも最も純粋で最も真面目な愛情を持ちつづけますが、女性は忍耐に対してめったに動じないのではないということを本で読んだことがあります。…私は男の中の一番邪悪な男(ジョーンズ)が彼女の心の中の一番奥深くに残っていることを知りすぎるくらい知ってます」と(17-3)。

㉖ソフィアについて作者は述べる。

「模範的な人物の中で可哀そうなソフィアほど迫害を味わったものは誰もいないと(17-4)。

㉗英語の構文は none ~ more ~ than

㉘ウェスタン夫人とソフィアがいる場面で夫人は言う。

「イギリスで一番よい結婚を拒否したあなたに私が結婚しなさいと言ったことを世間の人に知られたくないのです」と(17-4)。

㉙ゲイトハウスにいるジョーンズに会いに行ったミラー夫人とナイチンゲールに向ってジョーンズは言う。

「フィッツパトリック氏の宿命がどんなになろうと、自分の仲間の一人の血を流したことを、彼にふりかかった最高の不運としていつも嘆いている。…しかしもう一つ一番厄介な不運がある。それは私が地上で一番いとしく思う人を失ってしまったこと」と(17-5)。

㉚上記と同じ場面でミラー夫人が言う。

「すべてうまく行くでしょうし、この世で一番魅力のある若い女性とあなたが一緒にいてしあわせであるのを見たいし、彼女が一番魅力があるとみんなから聞くから」と(17-5)。

㉛上記と同じ場面で作者はミラー夫人について述べる。

この善良な女性は実際にこの世で一番価値のある女性であったと(17-5)。

㉜オールワージー氏とミラー夫人が話している場面でオールワージー氏は言う。

「私がこの手段をとる決心をしたのは最も十分で最も明白な証拠に基づいていると約束する」と(17-6)。

㉝ウェスタン氏とソフィアがいる場面で作者は述べる。

父の同意なしに誰とも結婚しないとソフィアが言うので、このために老人(ウェスタン氏)は最高のしあわせになったと(18-2)。

㉞オールワージー氏がジョーンズについて言う。

「一番正しい正義を持っていると考えることなしに、彼から愛情を控えたことはなかった」と(18-3)。

㉟ミラー夫人がオールワージー氏に言う。

「この可哀そうな若者に振りかかった災難はすべて彼を最低の落胆に投げこんだにちがいな

いとあなたは想像しているでしょう」と(18-5)。

(zz) オールワージー氏がパートリッジに言う。

「君はすべての人間の中で一番奇妙な人間だ」と(18-6)。

(aaa) 上記と同じ場面でパートリッジが言う。

「私はソールズベリーに来て法律関係の紳士、私が知っているうちで一番善良な紳士のところで仕事をするようになりました」と(18-6)。

(bbb) 上記と同じ場面でパートリッジが言う。

「私はライミントンに引き越してから3年以上もう一人の弁護士の下で働きましたが、その人はイギリスで一番愉快な紳士でした」と(18-6)。

(ccc) 上記と同じ場面でパートリッジが言う。

「当時私は豚を飼っていましたが、そのうちの一頭が隣の家に侵入したために隣人が私の主人に最もいまいましい嘘をついたのです。しかし最後には私がイギリスで一番大きな豚商人と考えられたようです」と(18-6)。

(注) 作者が自分自身について述べる。

私自身ほど下品な言葉づかいをひどく嫌い軽蔑する人はいないし、私自身ほど理性を沢山もっている人はいないと(18-1)。

上例中の(n)と(q)と類似した構文で No ~ more ~ than

(ddd) オールワージー氏とウォーターズ夫人がいる場面でオールワージー氏は言う。

「サマーという男は学問と美德のある牧師の息子で、彼に対しては最高の友情を持っていた」と(18-7)。

(eee) 上記と同じ場面でウォーターズ夫人が言う。

「私が会った中で一番男らしい男だただけでなく、非常に上品で機知にとんでおり育ちがよかった」と(18-7)。

(fff) オールワージー氏とジョーンズが話している場面でジョーンズが言う。

「ソフィアを自分のものと呼ぶことは最大の喜びであり、今となっては天がさずける唯一の祝福である」と(18-10)。

(ggg) ジョーンズとソフィアが話している場面でソフィアが言う。

「確かにあなたは今度の発見で世界一幸運な人です」と(18-12)。

(hhh) ジョーンズとソフィアが話している場面でジョーンズが言う。

「おお、私のソフィアよ、人間の心を燃やした激しい感情の中で最も純粋な感情の誠実さを疑ってはいけない。最も崇拜すべき女よ、私の不幸な状況を、私の絶望を考えよ。私のソフィアよ、私が今こうしているようにあなたの足元に身を投げることを許される最もはかない希望をもし喜ぶことができれば、最も厳しい節操でも非難できる考えを鼓舞したのはどんなほかの女にもできないことだった」と(18-12)。

(iii) 結婚式をあげる直前のジョーンズ氏の様子を作者は述べる。

読者よ、とうとう物語が結論に達したが、読者の期待に反してはいても、私たちが大変嬉しいことに、ジョーンズ氏はすべての人間の中で一番しあわせであるように見える。というのは

ソフィアのような女性を妻に迎えることにこの世がどんなしあわせを与えるか私は今まで発見したことがなかったからと (18- the last)。

(jjj) ジョーンズとソフィアが結婚したあと二人と老人 (ウェスタン氏) について作者述べる。

ジョーンズはソフィアを喜ばせることの次に、最高の満足の一つは老人の幸福に貢献することであると言ってソフィアを得心させたと (18- the last)。

(kkk) ウェスタン氏について作者は述べる。

ウェスタン氏は1歳半になっている小さな孫娘のおしゃべりがイギリスで最もすばらしい犬の叫び声よりも甘い言葉であると宣言すると (18- the last)。

(lll) 結論として作者は述べる。

この優しい二人ほど価値ある夫婦は発見されないように、この夫婦ほどしあわせだと想像できるものはいない。二人はお互に対して最も純粋で最も優しい愛情を持ちつづけているし、その愛情はお互に慕い合いお互に尊敬することによって日毎に増大し確かになっている。そしてまた親類や友人に対するのにも劣らないぐらいに優しいものである。二人より身分の低い人々に対する謙譲、寛大、慈善はすばらしいので、ジョーンズ氏とソフィアが結婚した日を一番満足して祝福しない人は隣人の中にも借家人の中にも召使いの中にも一人もいないと (18- the last)。

## 6. おわりに

ヘンリー・フィールディングの小説である『トム・ジョーンズ』を4回に分けて例証して来たが、全部で18巻196章から成る物語の中で作者は何を描きたかったのか。

まず18世紀のイギリスの上流社会の人々、特に理想的な若い男女が結婚するまでの波瀾万丈の人生模様を描きたかったのであろう。

次に善人を描こうと思ったのであろう。善人と言っても全く非の打ちどころのない、善の塊のような人間ではなくて、喜怒哀楽に富んだ人間、時には悪いこともする人間を描こうとした。

三番目に人間の自由、特に女の自由、伝統や慣習に束縛されない人間の自由、道徳や宗教からの自由を描こうとした。

最後に作者の意識の中にはいつも真善美の志向と喜劇的志向があるので、どの登場人物も大抵善人として喜劇的に描かれる。真善美の反対の偽悪醜はあまり問題にされないし、更に付け加えると、聖と俗の聖の方が強調される。死より生の方が、過去より未来の方が強調される。

以上、作者の創作の意図を四つあげたが、しばらく時間をおいて読みなおすと、また何か発見できるそんな作品が『トム・ジョーンズ』だと思う。